



物流ニュース

NO. 81

2010年12月

ブラジル通関事情

ブラジルではグローバル化が進展するにつれて、通関手続きや貿易に関連する業務が複雑になりつつある。そのような中、ブラジルに進出している日系企業の多くが、複雑な関税計算や不透明な通関制度に頭を抱えている。そこで、本ニュースではブラジルにおける通関制度の現状について説明する。

1. ブラジルの貿易システム

ブラジルでは1997年にSISCOMEX（貿易統合システム）が導入されて以降、オンライン化が進められている。また、2003年にはRADAR（輸出入業者登録システム）が導入され、輸出入手続きを行う企業を登録制にすることで、脱税や違法行為を行う企業の抑制を図っている。輸出入業者登録には2つのタイプがあり、輸出入額の実績に応じて簡易登録と通常登録が可能となっている。

<RADAR（輸出入業者登録）>

- | | | |
|---------------------|----|------------------------------|
| 1. 簡易（Simplificado） | 輸出 | 年間 FOB 価額が US \$ 30 万ドル以下の企業 |
| | 輸入 | 年間 CIF 価額が US \$ 15 万ドル以下の企業 |
| 2. 通常（Ordinaria） | | 上記以上の取扱実績のある一般輸出入企業 |

なお、RADAR の登録をする際、メーカー等は輸出入を代行する企業（通関業者など）を登録しなければならず、物流業者が変更になる場合は当該登録を更新する必要がある。そのため、物流業者の新規顧客獲得に向けた営業活動の障壁の一つになっている。

2. メルコスール共通分類番号（NCM 番号）

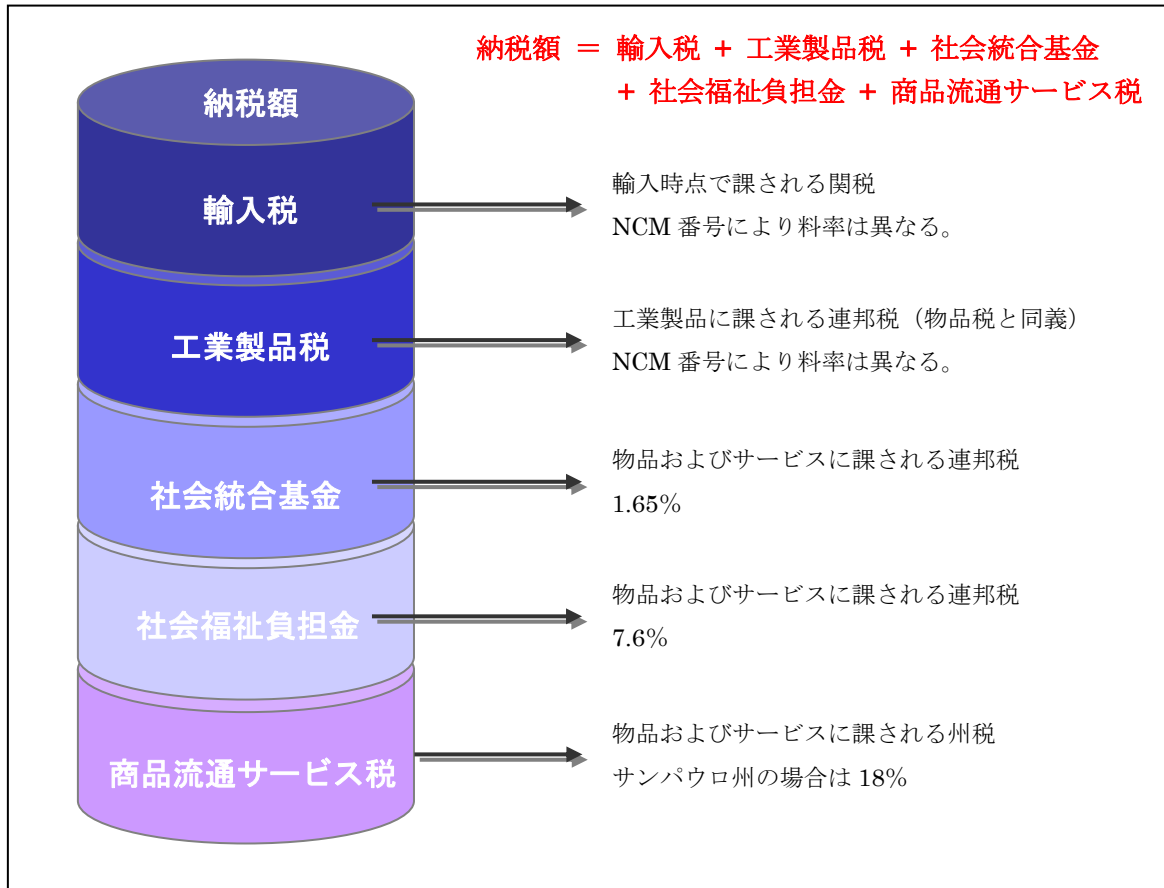
ブラジルでは輸出入申告の際、メルコスール域内各国共通の NCM 番号を利用する。この NCM 番号は、日本や欧米で使用されている HS 番号の上 6 桁と共通で、下 2 桁がメルコスール独自の番号となっている。

ここで注意すべきことは、NCM 番号を誤って税関に申告した場合、一つの誤りに対して 5,000 レアル（約 25 万円）という高額な罰金が課されることである。そのため、輸出入に際しては税関との見解の相違や誤りが発生しないよう、必ず貨物のカタログや図面、写真等を添付し、ポルトガル語による詳細な説明を記載するよう徹底した対応をとることが必要となる。

3. ブラジルにおける諸税の種類

ブラジルでの企業経営の一番の悩みは高い税金である。そして、輸出入においても日本や欧米諸国と比べると非常に高い税金が課されている。実際に課される税金の種類は以下の通りであり、多くの税金の種類が存在していることが分かる。

図表 1. ブラジルへの輸入時に課せられる税の種類



ここで、輸入に掛かるコスト事例として日本とブラジルの税金の差を比較してみる。すると、ブラジルの税金がいかに高いことが分かる。（下記計算はブラジル税収局指令第 572 の計算方式を適用）

図表 2 日本とブラジルの輸入コストの比較
※乗用車（1,500～3,000cc）を輸入した場合

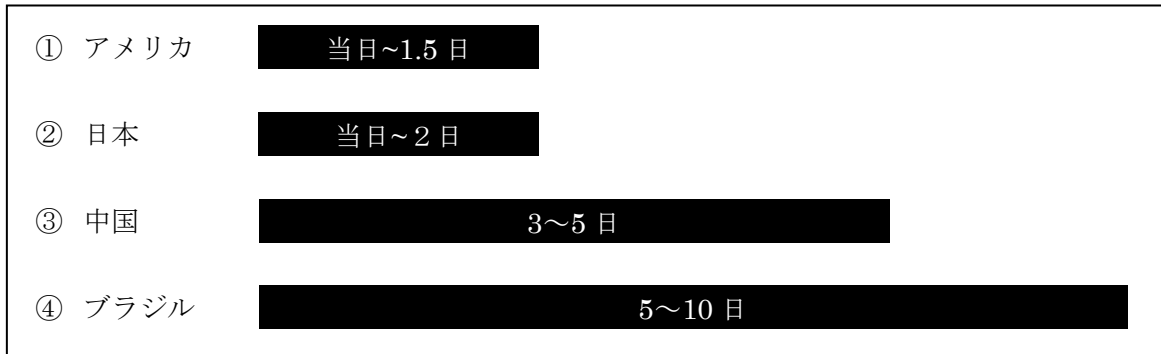
<ブラジルへの輸入価格>		<日本への輸入価格>	
CIF Santos 10,000 ドル		CIF Tokyo 10,000 ドル	
① 輸入税	3,500.0 ドル	① 輸入税	0 ドル
② 工業製品税	3,375.0 ドル	② 消費税	400 ドル
③ 社会統合基金	249.2 ドル	③ 地方消費税	100 ドル
④ 社会福祉負担金	1,147.7 ドル	(合計)	500 ドル
⑤ 商品流通サービス税	4,015.9 ドル		
(合計)	12,287.8 ドル		

(参考) 輸入税の計算価格は JETRO 資料を抜粋

4. 海上輸入貨物の平均リードタイム

ブラジルの通関はオンライン化が図られているものの、迅速な通関許可が得られる体制には至っていない。各国の海上貨物の通常の輸入に掛かる通関所要日数を比較すると、ブラジルの通関所要日数がいかに長いことが分かる。

図表 3. 通常の輸入にかかる通関所要日数の比較



※所要日数は筆者のヒアリング結果の基づく推測によるものであくまで参考

5. 最後に

今後、ブラジルは更なるパラダイム・シフトに突き進むことで、日系企業によるブラジルへの進出・ビジネスの構築が進むだろう。大手企業がブラジルに生産拠点を築くことは珍しいことではなくなり、中小企業のブラジル進出も増えていくと想定される。このような中、いかに各種税金を低く抑え、通関リードタイムを短くするかがブラジル・ビジネスを成功するための大きなキーになるだろう。

輸入に掛かる高い税金については、各種減免税に関する法令も存在するため現地輸出入代理企業との密接な連携体制が欠かせない。また、通関リードタイムにおいても優良事業者に対して迅速な通関許可が付与される制度（Linha Azul：迅速通関カテゴリー）が設けられている。このように、ブラジルの複雑な通関法規を熟知することが、ブラジル通関を円滑化するためには肝心であろう。

KEY WORD: Linha Azul（迅速通関カテゴリー）

輸出入実績の大きい企業は、Linha Azul（迅速通関カテゴリー）の適用を受けることができる。これにより輸出入通関のほとんどで税関検査がなくなり、輸入申告から 6 時間後には通関の許可が可能となる。

——日通総合研究所 ロジスティクスコンサルティング部——